

し じょうきん ご どの ご へん じ
 「四条金吾殿御返事」
 ふ か しゃくしよりょう こと
 (不可惜所領の事)

いっしょう 夢 うえ あ す 期
 一生はゆめの上、明日をご
 せず。いかなる乞食にはなる
 とも、法華経にきずをつけ給
 うべからず。されば、同じく
 はなげきたるけしきなくて、
 この状にかきたるがごとく、
 すこしもへつらわず振る舞い
 仰せあるべし。中々へつらう
 ならば、あしかりなん。

(御書新版1583ページ・御書全集1163ページ)

通解

一生は夢の上の出来事のようにあり、明日のことも分からない。どのようなつらい境遇になっても、法華経に傷をつけてはならない。

それゆえに、同じ一生を生きるのであれば、嘆いた様子を見せないで、私がこの陳状に書いたように少しもへつらわず振る舞い、語っていきなさい。なまじへつらうならば、かえって悪くなるであろう。

信じた道を進む「勝利者」に！

よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 今年も残り1カ月。今月も御書を学んで、一年の締めくくりを充実した日々にしていこう！

今回学ぶ「四条金吾殿御返事」は、日蓮大聖人が1277年（建治3年）に身延で著され、弟子である四条金吾に送られたお手紙です。

この前月、大聖人の弟子と他宗の僧侶が法論を行った際、金吾が徒党を組んで乱入したというデマが流れ、金吾の主君・江間氏の耳にも入ってしまいます。江間氏は金吾に、“法華経の信仰を捨てよ。さもなければ所領を没収する”と迫りました。しかし、金吾は迷わず信仰を選び、大聖人に報告。大聖人は金吾に代わって正義を弁明する「頼基陳状」を認められ、あわせて本抄を送られたのです。大聖人は、どんな苦しみにあっても信仰から離れず、自分が信じた道を堂々と進むことの大切さを教えられています。

この大聖人の教えは、僕たちの生活にも通じるよ

ね。

みんなは、やるべきことは分かっているけど、実際に行動に移すことが難しくて葛藤した経験はあるかな？ 僕は、“一度決めたことを頑張っ続けてよう！”と思っても、目の前の楽しみや周囲の行動に流されて、後悔したことがあるよ。

そんな時に大切なのが、今回の御文で学んだ“不退の心”なんだ。金吾のように、“どんなことがあっても負けない”“自分の決めた信念を貫こう”と心を決める。そして、信心根本に全てのことに挑戦する中で、成長の軌跡を描くことができるんだ。

池田先生は語っています。

「大変な時に、変わらずに頑張れば、後で尊敬される。状況が厳しかろうが、人が変わろうが、自分は自分の決めた道を通く。その人が『人間として』の王者です。勝利者です。最後は勝つ」

“夢のように短い”一生の中で「勝利者」となるために、自分を信じた道を生きていく——この強い信念を持って、来年も成長の一年にしていこう！